

## 短報

## クマゼミの遅鳴きの最近の記録

久保田 信\*・田名瀬 英 朋\*

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: Recent records of the latest droning of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

暖地性で大型のクマゼミは、日本では九州地方鹿児島県から関東地方まで分布し、夏季(7-8月)にだけ鳴くセミである。ところが、夏期を過ぎてほとんどの個体が見られなくなってからも鳴く場合がある。このいわゆる“遅鳴き”が、和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内で、最近の2年間に連続してみられたので報告する。

## クマゼミの遅鳴きの記録

1997年と1998年にごく少数個体による遅鳴きが以下のように記録された。いずれの場合も午前中だけ鳴いた。一日に最高3回、異なる時刻に鳴き声が聞こえ、他の例では、2個体が同時刻に鳴いた。

年月日	時刻	個体数
1997-IX-23	11:45	2
1997-IX-25	10:57	1
1998-X-19	9:19, 10:30, 10:45	1?

上記の記録のうち、1997年9月23日に共鳴きした個体の片方が再び2日後の25日にも鳴いた可能性がある。また、1998年10月19日付けの記録、3回の鳴き声のうち、最初のは悲鳴音のようなもので、すぐに鳴き止んだ。

その後の2回の鳴き声は通常のもので、その間隔は15分と短く、聞こえてきた方向や強さは同じであった。この10月半ばだと既にクマゼミの最盛期から2ヶ月を経過しており、この時節に存在する個体は非常に少ないと推察される。これらのことから、その日には3個体ではなく同一個体が鳴いた可能性が大きい。従って、当該地域では、この2年間に最低2個体、最高で6個体の遅鳴きがあったことになる(1997年は2-3個体、1998年は1-3個体)。

ところで、過去のわが国におけるクマゼミの遅鳴きの記録をみると、南関東地方が9月の下旬まで、九州地方が10月中旬までとなっており(環境庁, 1998; 中尾, 1990)、今回の記録地である白浜町は南近畿地方にあたり、両地方の間に位置するが、時期的には著しい差はない。ただし、1998年は相当時期遅れの鳴き声の記録といえる。

## 引用文献

- 環境庁. 1998: 身近な生きもの調査. 35 pp. 環境庁 自然保護局 計画課, 自然環境調査室, 東京.  
中尾舜一. 1990: セミの自然誌. 179 pp. 中公新書. 中央公論社, 東京.

\* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所